

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

日頃より本校の教育にご理解とご協力を頂戴しており、誠にありがとうございます。令和4年4月19日に実施した6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。6年生の結果ではありますが、子どもを主体とした学びに授業を改善する際の資料として、全学年、全職員で共有する資料です。ぜひ、ご家庭でも、お子さんと話してみてください。

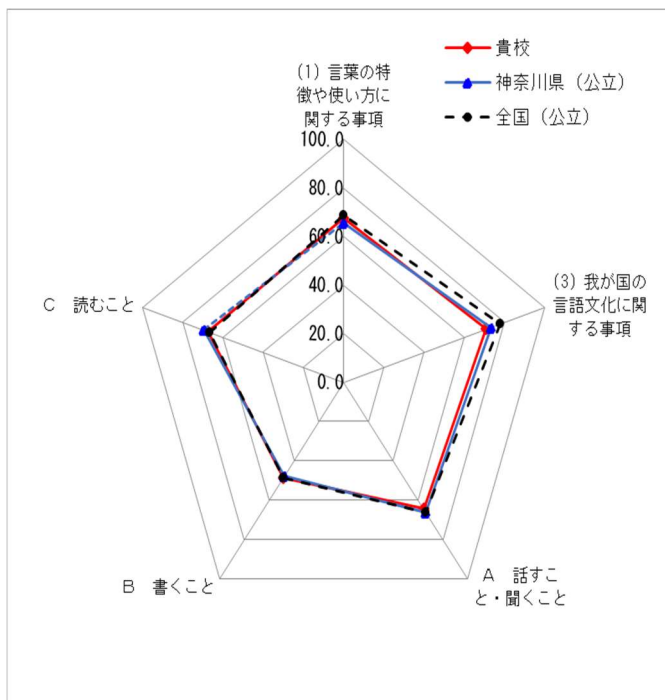
### 国語

＜学習指導要領の内容の平均正答率（公立学校）の状況＞

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			65	65	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	67.5	65.6
		(2) 情報の扱いに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	70.8	73.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	64.6	66.3
		B 書くこと	2	48.6	47.9
C 読むこと		4	67.7	69.5	
評価の観点	知識・技能	6	68.1	66.8	
	思考・判断・表現	8	62.2	63.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	73.6	72.9	
	短答式	3	56.9	57.4	
	記述式	3	48.6	50.6	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況 グラフ＞

＜本校児童の学力の分析(全国との比較)＞



### 1 概況 全体としては、全国平均と同等である

- ・知識及び技能に関しては、いずれも全国平均を下回っている。
- ・「A 話すこと・聞くこと」は、1.6 ポイント低い。
- ・「B 書くこと」は、ほぼ同じ。
- ・「C 読むこと」は、1.1 ポイント高い。
- ・知識・技能は、1.8 ポイント低い。
- ・思考・判断・表現は、ほぼ同じ。

### 2 設問分析(特徴的なもの)

- ・「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」は、4.8 ポイント高い。
- ・「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」は、5.6 ポイント高い。
- ・「登場人物の相互関係について、描写を捉える」は、5.8 ポイント高い。
- ・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える」は、4.1 ポイント低い。
- ・「人物像や物語の全体像を具体的に捉える」は、5.8 ポイント低い。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」は、1.1 ポイント低い。

＜本校児童の傾向をふまえた国語科の授業改善＞

昨年度も課題に挙げたが、自分に必要な情報を、根拠を明確にして取捨選択しながら、自分に何が伝わってきているのか、

それを人にどのように伝えるのかなど、自分の考えや思いを表現する力の育成が必要である。学習の中では、教師が用意周到に準備したものだけではなく、児童自身が対象をしっかりと見つけ、自分の思いや考えを形成したり醸成したりする学習を保障することが求められる。それは漢字の設問にも顕著に表れており、ドリル的な学びではなく、文脈の中で正しい漢字を扱える力の育成が大切である。主体的な学びは、必要感のある本物の学習でしか実現しないことを、いま一度確認する必要がある。

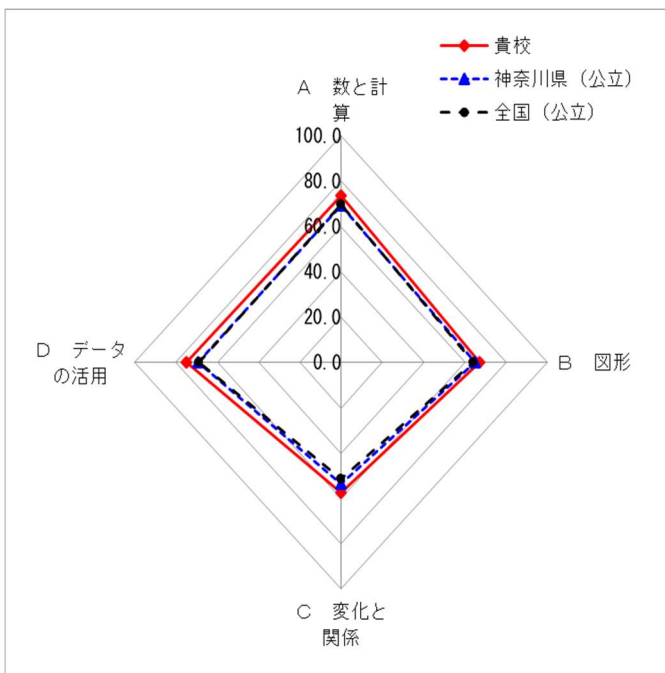
## 算数

### <学習指導要領の内容の平均正答率(公立学校)の状況>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	68	64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	73.6	69.4	69.8
	B 図形	4	67.0	64.9	64.0
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	57.3	53.3	51.3
	D データの活用	3	75.0	69.5	68.7
評価の観点	知識・技能	9	72.2	69.0	68.2
	思考・判断・表現	7	61.7	57.5	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	57.6	53.9	51.8
	短答式	6	81.5	77.0	76.5
	記述式	4	61.8	59.5	60.2

### <学習指導要領の内容の平均正答率の状況 グラフ>

### <本校児童の学力の分析(全国との比較)>



#### 1 概況 全体としては、全国平均よりも4.8ポイント高い

- ・知識及び技能、思考・判断・表現に関して、いずれも全国平均を上回っている。
- ・「A 数と計算」は、3.8ポイント高い。
- ・「B 図形」は、3.0ポイント高い。
- ・「C 変化と関係」は、6.0ポイント高い。
- ・「D データ活用」は、6.3ポイント高い。
- ・知識・技能は、4.0ポイント高い。
- ・思考・判断・表現は、5.0ポイント高い。

#### 2 設問分析(特徴的なもの)

- ・「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータを捉え考察できる」は、12.5ポイント高い。
- ・「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」は、9.0ポイント高い。
- ・「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」は、7.7ポイント高い。
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」は、8.3ポイント高い。
- ・「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」は、2.4ポイント低い。

### <本校児童の傾向をふまえた算数科の授業改善>

算数科の結果は、全国のそれに比べ多くの項目で高いポイントを示しており、本校の児童の学力が着実に育まれていることが分かる。特に、データに基づいた分析と考察については、これからの時代を生きる子どもにとっては、必須と言える能力であり、情報活用能力の育成に力を入れている本校においては、嬉しい結果である。一方、課題点も明確である。分析したり考察したり

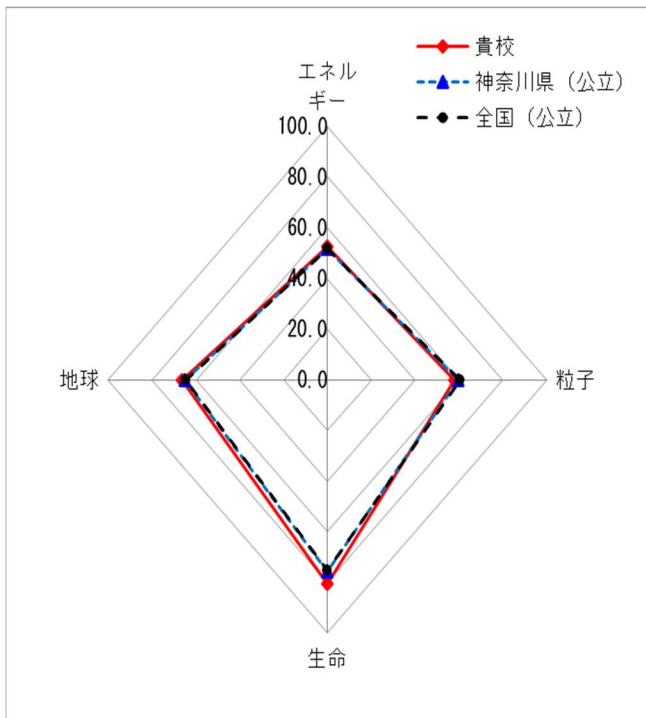
する場合、選択肢があれば判断できるが、記述するとなると苦手意識が出ているのが分かる。自分の考えを自分の言葉で表現していくという資質・能力は、算数科においても大切であり、日頃の授業においては、自分の考えや答えを導くまでの過程を説明したり、答えの理由などを述べたり書いたりするような改善を図る必要がある。

理科

<学習指導要領の内容の平均正答率(公立学校)の状況>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		17	64	63	63.3
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	52.4	51.8	51.6
		「粒子」を柱とする領域	57.8	59.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	80.6	75.6	75.0
		「地球」を柱とする領域	66.4	64.9	64.6
評価の観点	知識・技能	6	63.4	61.8	62.5
	思考・判断・表現	11	65.0	64.2	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	70.3	67.7	66.8
	短答式	3	65.7	64.1	66.2
	記述式	3	41.7	46.5	47.3

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況 グラフ>



<本校児童の学力の分析(全国との比較)>

- 概況 全体としては、全国平均よりも0.7ポイント高い
  - 知識及び技能、思考・判断・表現に関して、概ね全国平均を上回っているか、同じくらいである。
  - 「A区分 エネルギー」は、0.6ポイント高い。
  - 「A区分 粒子」は、1.7ポイント低い
  - 「B区分 生命」は、5.0ポイント高い。
  - 「B区分 地球」は、1.5ポイント高い。
  - 知識・技能は、1.6ポイント高い。
  - 思考・判断・表現は、0.8ポイント高い。
- 設問分析(特徴的なもの)
  - 「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」は、10.0ポイント高い。
  - 「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」は、9.5ポイント高い。
  - 「日光は直進することを理解している」は、8.3ポイント高い。
  - 「得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」は、7.7ポイント高い。
  - 「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」は、10.1ポイント低い。
  - 「メスシリンダーという器具を理解している」は、8.1ポイント低い。

<本校児童の傾向をふまえた理科の授業改善>

理科は、三年に一度の調査である。結果は、全国に比べ同じくらいとなっている。高いポイントを示している項目に共通しているのは、「自分の考えをもつことができる」ところであり、本校の児童が授業中に思考している様子が伺える。特に、考査や分析を進めていく上で、自分の考えや種類のデータだけでなく、複数の視点での分析や考察ができるのはすばらしいと考える。一方、課題としては、算数科と同じで選択肢からの判断はできるが、記述が苦手という点にある。理数系科目においても、自分の考えを自分の言葉で表現していくという力の育成が必須であり、早急な授業改善が求められることを示している。

児童質問紙調査(顕著な傾向や特に着目したい部分を年度で比較。全国は R4の結果。)

・各質問事項に対する回答は、

1(当てはまる) 2(どちらかといえば当てはまる) 3(どちらかといえば当てはまらない) 4(当てはまらない)

に分けられている。

・基本的にこれらの回答のうち、1および2、つまり、「当てはまる」の割合を次に掲載する。

内容	質問事項	R4	R3
生活習慣	朝食を毎日食べていますか 全国 94.4	97.3	98.4
	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか 全国 71.5	70.3	79.4
自己肯定感	自分には、よいところがあると思いますか 全国 79.3	77.0	82.5
学校生活	学校に行くのは楽しいと思いますか 全国 85.4	94.6	92.1
	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか 全国 73.5	81.1	—
家庭学習	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む) 全国 71.1	82.4	81.0
地域へのかわり	今住んでいる地域の行事に参加していますか 全国 52.7	58.1	67.2
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか 全国 51.3	67.5	68.2
GIGA	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか 全国 58.2	63.6	25.3
	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換するために、どの程度使用していますか 全国 22.5	20.3	23.8
	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、調べるために、どの程度使用していますか 全国 43.9	37.9	23.8
新しい考えの構築	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか 全国 68.4	71.1	—
自分の考えを生かす	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか 全国 73.8	77.0	80.9
学習について	国語の授業の内容はよく分かりますか 全国 84.0	93.2	—
	算数の授業の内容はよく分かりますか 全国 81.2	89.2	—
	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか 全国 78.0	81.2	—

・この表に記載のほかに、

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問にも着目したい。この質問においては、実に約4分の1に当たる **23.0%**の児童が「**どちらかといえば当てはまらない**」と答えており、探究力を育成していく場面がもっと必要だと思わせる結果となっている。日頃から問題解決的な学習過程を構築し、児童の素朴な気付きから、仲間と共に問題を解決していくことよさを実感できる授業づくりを目指していきたい。

これ以外にも、毎年低い値なのは、学校の授業時間以外の読書時間についての質問では、「**1時間以内**」「**全くしない**」と答えた児童が合わせて **37.9%**もいた。「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(雑誌,新聞,教科書は除く)」という質問では、全国に比べ比較的多い冊数を持っている家庭が多いという結果が出ているので、家庭においても意図的な読書時間の確保が必要なのではないかと思わせる結果である。